

如水会寄附講義「社会実践論」講義要綱（2009年度冬学期）

講義責任者：山崎秀記

2009年10月6日（火） オリエンテーション

14時40分 東2号館 2201番教室

如水会寄附講義「社会実践論」では、産業界等、社会の第一線で活躍されている本学の12名の先輩の方々が、週1回ずつ（火曜4限）オムニバス方式による講義をされます。

皆さんが、将来の職業選択を軸に大学でこれから何を如何に学ぶかを考える指針となるように、現在第一線で活躍されている諸先輩に、「学生時代に何をしたか」、「社会に出てどういう転機があったか」等自らの体験を交えてお話しいただきます。講師の方々は、自分の歩んでこられた、そしていま歩んでおられるところから、社会を、日本を、あるいは世界を切り取って皆さんにわかりやすく提示し、皆さんが、現代社会とそこでの社会実践のあり方を個別具体的に考える機会を与えてくださることでしょう。

皆さんは、1回きりの講演をただ聞くというだけでなく、先輩の生き方や考え方にふれて触発されたものを質問や感想・意見として返し、ともに考え学ぶ場を作り出してください。

なお、本講義は、如水会および一橋大学の学問風土の活性化を目指して故永井正（22学）氏が寄附された基金をもとに運営されている一橋大学後援会「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」からの資金提供によって運営されています。

講義日程

第1回 10月13日（火）



テーマ：「如水会からみた社会と大学」

講師：関 統造 社会学部・昭和41（1966）年卒

如水会 理事・事務局長

青山学院大学経済学部非常勤講師

森林インストラクター（東京会所属）

講義内容

大学卒業後三菱商事に入社し、世界各国を経験させてもらい、退社後は青山学院大学で非常勤講師としてエネルギーを語る機会を頂き、また森林インストラクターとして多くの方々に野山にご案内するなどチグハグな人生を送ってきたが、最後は如水会の事務局長を拝命し現在に至っている。如水会は勿論営利団体ではない。大学支援と会員相互の親睦、知識の増進が目的であり、コンセプトが企業とかなり異なっている。今回は如水会の目を通して、大学や社会を皆さんと一緒に考えてみたい。

第2回 10月20日（火）



テーマ：「世界的視野とスケールで、ITを使って社会を変革していく」

講師：石塚昭浩 社会学部・平成3（1991）年卒

株式会社NTTデータ パブリック&フィナンシャル事業推進部

事業戦略担当 部長

講義内容

私が就職した平成3年は、本講義を受講される皆さんが生まれたばかりの頃になります。

当時はインターネット、携帯電話はおろかパソコンも個人では殆ど持っている人はおらず、一橋の学生にとっては、IT業界というのは縁遠い業界でした。この20年弱の間、ハード・ソフト・ネットワークの技術革新や、ITを取り巻く環境変化により、ITは様々な市民生活にとって欠くことのできないツールとして普及しただけでなく、旧来のビジネスモデルを駆逐し、新しいプレイヤーや秩序が形成された激動の時代だったと思います。

ITといえば、理系的な業界と思われがちですが、この業界に身をおきながら、一橋のような文系大学出身者がどのような貢献ができるか、なぜ私自身が当時の未成熟な業界に身を投じ、今尚この会社に留まっているのか。

IT業界の変遷と私の経験が皆さんの今後の学生生活、就職を考える上で少しでもお役に立てば、と考えております。

第3回 10月27日(火)



テーマ：「一橋大学“医学部”を卒業して一夢なきところ、民は亡ぶ」

講師：川渕孝一 商学部・昭和58(1983)年卒

シカゴ大学経営大学院修士課程(MBA取得)・昭和62(1987)年6月修了

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 医療経済学分野 教授

講義内容

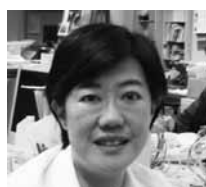
無資格者の私が一橋大学を卒業して、医療界に身を投じたのは、1983年である。この当時は国民医療費の伸び率が大きくダウンし、「病院冬の時代」が叫ばれ出した時期であった。

何故そんなひどい時代にこの分野に入ったかと言えば、「大学で経営学を学んだ君のような人材が今のわが国の医療界に必要だ」という甘い言葉にそそのかされてである。

確かに、民間病院に一般事務員として就職してみると、マネジメントのかけらもなかった。そこにあったのは、社会性に欠ける医師と劣等感に打ちのめされた専門職集団、そして、背中をまるめて、小さく座っている患者だけであった。

本講義では、“就社”ではなく、就職選びのヒントについて話す。

第4回 11月10日(火)



テーマ：「人生を柔軟に対応する力」

講師：木下由美子 法学部・昭和59(1984)年卒

米ハーバード大ケネディースクール政経大学院修士課程・平成3(1991)年6月修了

日本科学未来館・経営管理室室長

講義内容

一橋を卒業して早25年。日本銀行→マッキンゼー→日本科学未来館という全く違うタイプの組織で仕事をしながら、その間、留学・転勤・子育て等、私生活の変遷も織り込みながらここまで突っ走ってきました。学生時代は、どちらかというと「従業員を大事にする日本型会社社会」に魅力を感じていた方ですから、予定外の展開だったといえるでしょう。

学生時代に人生設計をして準備を怠らないことは、とても大事なことです。でも同時に、柔軟に対応できる力を蓄えることも重要だと、今では実感をもって言えます。「柔軟に対応できる力」とは何か。この辺りのところを皆様と探っていききたいと思います。

第5回 11月17日(火)



テーマ：「グローバリゼーションとキャプテンズ・オブ・インダストリー」

講師：松本正義 法学部・昭和42(1967)年卒

住友電気工業株式会社 社長

講義内容

日々、拡がりや深さを持って進行するグローバリゼーションがもたらす、社会政治経済文化の各分野における複雑な多様性と変化に対して、どの様な心構えで対応していけばよいか。

早晩実社会で混沌とした現実と直面されるであろうみなさんが、在学中に勉学に励まれ、自信を持って自ら立っていくためには、いかなる方向感覚・(知識)が必要とされるのか、原則のなき方法論は、特にパラダイムシフトがスピーディーにかつ頻繁におこる世において信頼に欠ける。

不易流行は変わらぬ真実、何が不易なのか、実社会40数年の経験で得た一端を紹介したい。

- | | | |
|-------------|-------------------------|-----------------|
| 1, 経歴の概要 | 2, 在学時代の教訓 | 3, ビジネスモデルの基本精神 |
| 4, 新入社員への言葉 | 5, キャプテンズ・オブ・インダストリーの真意 | 6, 期待される人 |

第6回 11月24日(火)



テーマ：「監査の厳しさ面白さ」

講師：加藤真美 商学部・昭和61(1986)年卒

あらた監査法人 ラーニングエデュケーショングループ (代表社員・公認会計士)

講義内容

皆さん、公認会計士はどのような仕事をしているかイメージ湧きますか？

粉飾決算という単語を聞いたことがあると思うのですが、会社はどんな不正をのでしょうか？そして会計士は監査業務を通じてどのように不正を発見していくのでしょうか？・・・

ちなみに、この業界は若い人たちが年々増えています。若き会計士の日常生活は非常にハードです。仕事はきついです、その反面のめりこむ面白さがあります。

私は今までこの業界で監査法人に勤務し、色々な経験をしてきました。現在は主に会計士の教育研修を行う立場にいます。

今回は、これまでの監査及び研修の経験を生かして、監査の厳しさと面白さを、わかりやすく、興味をもってもらえるように話をしていきます。会計士の世界へようこそ！

第7回 12月1日(火)



テーマ：「企業法務の現場から— 専門職そして社会人として成長するために」

講師：大島葉子 法学部・平成6(1994)年卒

GEフィナンシャルサービス株式会社 執行役員 アシスタントゼネラル
カウンセル(ジャパン)(弁護士・ニューヨーク州弁護士)

講義内容

100年に一度といわれた昨年秋からの金融危機。ファイナンス部門で企業法務に携わる者としてはきつても非常に多くを学んだ一年でした。

私は、東京の渉外法律事務所、ニューヨークの法律事務所を経て、現在は外資系企業法務部に勤務しています。転職の際重視したのは、仕事環境、仕事の内容、周囲の人々の他動物的な感覚でした。但し、入社後数ヶ月で会社にひっぱってくれた上司が「後は任せた」と退社する外資らしい経験もしています。また、法律事務所の弁護士としては一般的に緻密な分析に基づく完成度の高いアウトプットが求められるのに対し、社内弁護士として求められるのは、(完成度よりも)求められる時に保有する情報・分析に基づく即時の判断であったりします。

これまでの社会人経験と企業法務という仕事の内容をお話することで、将来の進路を考える学生の皆さんのお役に少しでも立てれば幸いです。

第8回 12月8日(火)



テーマ：「鉄道会社でのキャリアとワークライフバランス」

講師：君島由紀子 法学部・平成4(1992)年卒

株式会社JR東日本パーソネルサービス 武蔵浦和研修センター所長
(前JR東日本 川口駅長)

講義内容

「社会に貢献する仕事をする。そして女性でも当たり前のようにキャリアを積み、働きたい」という動機からJR東日本に入社し、地方勤務、駅の助役、駅長など鉄道事業の最前線でのキャリアを歩みました。

想定外の人事異動も、新たな自己発見や人的ネットワークの拡大に役立てられるもの。与えられた仕事に全力を尽くせば自分のスキルが向上し、成果を出せば周囲からも認められ、より高次の仕事に就くことが出来る…そう信じて十数年間、走り続けてきました。

最大の転機は妊娠、出産と育児休職。最近では、キャリアとライフをいかに調和させていくかが、働く上での新たなテーマとなっています。

今回の講義では、会社組織でのキャリアの築き方やワークライフバランスについて、皆さんに何らかのヒントを伝えられれば、と思っています。

第9回 12月15日(火)



テーマ：「人生は複線」

講師：新田八朗 経済学部・昭和56(1981)年卒

日本海ガス株式会社 社長

講義内容

17人のゼミだった。日本興業銀行2人、新日本製鐵2人、住友銀行2人、官庁4人、日本電信電話公社、住友信託銀行、三菱商事、三菱銀行、第一勧業銀行、日本合同ファイナンス、野村証券各1人。これが卒業当時の私たちの就職先。当時と同じ名前の職場に現在も働き続けているのは何と2人だけ。

企業の合併、中央省庁再編、出向、転職、起業などなど理由は様々だが、この30年の歳月は日本のかたちを変え、私たち17人の同期生の働く環境をも激変させた。それに伴いそれぞれに人生のドラマもある。そして、今もみんな懸命に働き充実した日々を送っている。新卒時に就く仕事を真剣に考えることはもちろん大切だが、その時の選択で一生が決まるものでもないということを体験に基づき話したい。

第10回 12月22日(火)



テーマ：「実践・地方主権～現役市長からの視点～」

講師：國定勇人 商学部・平成9(1997)年卒
三条市長

講義内容

今夏の衆議院選挙を通じて浮き彫りになった政策課題。これから先の“ニッポン”をどのように描いていこうとしているのか、各党の主張を伺い知る絶好の機会となりました。それでも、各党のマニフェストをじっくり見ていけばいくほど、行政テーマごとに、マニフェストの裏に隠されている現状認識、課題、解決方法を把握しきることは本当に難しかったはず。本講義では、“地方主権”にターゲットを絞り、国家公務員、地方公務員、そして市長を経験している立場から、その実践論を紹介できればと、もちろん、絶対的正論を持ち合わせているわけではありませんが、30代という比較的若い世代の視点からも分かりやすく、具体的仕事内容も含めて展開できればと思っています。

第11回 1月12日(火)



テーマ：「IMAGIN ～豊かな社会と明るい未来のために」

講師：佐藤 明 商学部・昭和62(1987)年卒
株式会社バリュークリエイト パートナー

講義内容

私の「仕事上の肩書き」を取って書くと、会社経営者、経営アドバイザー、上場企業などの社外役員、証券アナリスト、投資家、ベンチャーキャピタリスト、大学准教授、Webプロデューサー、選曲家などになります。皆さんには何のことかさっぱりわからないかもしれませんが、私の中では全て繋がっています。キーワードは価値創造(バリュークリエイト)。価値創造の源泉は、「わくわく感」と「想像力」です。私が現在の仕事をするまでにたくさんの良き出逢いがありました。講義では、その中でも重要な3つの出逢いを紹介させていただきます。始まりは大学時代から。乞うご期待。

第12回 1月19日(火)



テーマ：「職業人としての生き方」

講師：中村博司 商学部・昭和47(1972)年卒
社団法人 日本自動車連盟 国際担当部長

講義内容

私は、卒業後、民間銀行に就職しました。銀行員の例に漏れず、様々な業務に従事し、頻繁に転勤を重ね、政府機関にも出向し、海外に2回駐在した経験を持っています。銀行員時代には、ビジネスマンとして評価されるためには、業務知識・専門知識に加え、幅広く高い教養の必要性を痛感し、読書や異業種の方々とのお付き合いを心掛けました。現在も続けております。

国際業務経験が奏功し、非営利法人の国際要員として転職し現在に至っておりますが、営利を追求する民間企業と、それを目的としない非営利法人との両方に身を置いて、それぞれの持つ企業特性を実体験する機会を得ました。

現在、海外で同様の目的を有する組織との協力・提携関係構築、加盟する国際機関の中で日本の代表としての人的貢献などを通じて、日本のプレゼンス向上を目指しております。

講義では、私のビジネスマンとしての生き方をお伝えすることになりますが、皆さんが社会に出て諸問題に直面した時に参考になれば、と思っています。